令和5年度　西東京市立田無第四中学校　関係者評価表（第2回）

学校の教育目標
私たちは、憲法と教育基本法の精神にのっとって、平和で民主的な明日の日本を背負う人間の育成を目指して次の目標を定める。
○すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。（「問題解決力」の育成）　○丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。（「実践力」の育成）
○友達を大切にし、仲間の輪をひろげよう。（「人間関係形成力」の育成）　○目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。（「深く学ぶ力」の育成）

1　目指す田無四中の姿　(1) 温かく活気に溢れる学校　(2)生徒、教職員の個性を生かす学校
2　目指す四中生の姿　(1) 自ら学び、自らを治める生徒　(2)自己実現に向けて挑戦し、やりぬく生徒
3目指す 教職員の姿　(1) 生徒に寄り添い、挑戦を支援する教職員　(2)自ら学び、生徒と共に歩む教職員

	具体的方策	学校自己評価 取組指標	学校自己評価 成果指標	学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
確かな学力の向上	ユニバーサルデザインを取り入れた授業を実施するとともに、ねらいを明確にし、問いや学習活動を工夫して、分かりやすい授業に取り組む。	4	4	四中ユニバーサルデザインにより教育環境を整え、分かりやすい授業を目指した。授業のねらいを明確にして、習得したことを活用し、身に付ける授業に取り組んでいく。	A	自己評価は適切である。 よく工夫し、実践されています。
	ＩＣＴ機器、デジタル教科書（英数）を活用した授業改善と教材開発に取り組む。	4	4	大型モニターを活用し、教材・教具の開発や効果的な活用方法を考え、授業で実践を重ねてきた。今後も継続的なＩＣＴ機器の活用と単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を進める。	A	自己評価は適切である。 デジタル教科書の活用や教員が不足した単元をオンラインで対応など、制限がある中、努力されていると思います。
	授業で、考える、話し合う、タブレットを活用して視覚化する、発表するなどの活動に取り組む。	4	4	記録する、要約する、説明する、論述するなどの活動を意図的に設定した。さらに、生徒同士の学び合いや考える時間を効果的に取り入れ、生徒の言語活動の充実を図る。	A	自己評価は適切である。 コロナ禍で、大いに活用している。
豊かな心の育成	「自治」を意識した行事や生徒会活動・部活動・奉仕活動などの諸活動を通して、学級、学年、学校、地域への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	それぞれの活動において、所属感や自己有用感を高めるよう指導した。今後は、生徒が自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図って行くことができるようにする。	A	自己評価は適切である。 コロナ禍でよく取り組んでいます。
	体験活動等を通し、職業観、勤労観とともに、集団の中の個の役割について学ばせる。	4	4	職業調べ、身近な人へのインタビュー、オンラインによる職場体験、上級学校調べ等を行い、自らの生き方、意識付けを早めにもてるよう指導している。安定した朝読書活動が実施できている。外部機関と連携した特色ある本校の体験学習の機会を今後も増やしていく。	A	自己評価は適切である。 できない中でも、できることをされていると思います。 現場で直接指導を受け、学べる職場体験の実施ができると良いです。
	特別の教科 道徳を中心に、人権や命の大切さについて考え、議論させ、学ばせるとともに、生命あるものは互いに支え合って生きていることについて理解を深めさせる。	4	4	道徳教育、人権尊重教育などを継続して行い、道徳的判断力を育成している。今後も生徒の発達の段階や特性等を考慮し、情報モラルに関する指導や社会の持続可能な発展などの現代的な課題を取扱い、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てる。	A	自己評価は適切である。 コロナ禍でよく取り組んでいます。
個に応じた指導	積極的にあいさつを交わす、時間を守る、身だしなみに気をつける等の大切さを理解させ、よりよい生活習慣を身につけ、３年間を通して生徒が将来の進路について考え、自ら切り拓いていく力を育てる。	4	4	あいさつ運動、一分前着席など行い、規範意識や生活習慣を日々の生活の中で繰り返し意識させ、一定の定着が見られる。今後も５つの柱である「挨拶」「時間」「身なり」「清掃」「集会」を軸に、自分たちで行動できるように指導していく。	A	自己評価は適切である。 四中生のあいさつは変わらずよくできています。
	西東京あったか先生として様々な場面で生徒に寄り添い、教育相談活動を充実させ、生徒の心の支援に取り組む。（いじめの未然防止と早期発見に努める。）	4	4	年４回の面談を大切にし、生徒との信頼関係の構築に努めている。今後も、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題を丁寧に受け止め、生徒の発達を支援する。	A	自己評価は適切である。 生徒の「学校に行くのが楽しい。」について肯定的な割合が87%でり、よく取り組んでいると思います。
地域との連携	保護者との連絡は適切に行い、連携を深めながら生徒の育成を図る。	4	4	生徒会、ボランティア部等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。今後も育成会等の活動再開に伴い、生徒のボランティアマインドの醸成と積極的な参加を促していく。	A	自己評価は適切である。 今後、育成会活動も戻りつつあるので、そこで四中ボランティアを募集し、生徒さんにお手伝いしていただけることを願っています。
	学校公開や学校HP・各種たより・メール配信・奉仕活動等を通して、教育内容や取組について積極的に発信するとともに、地域との連携を深める。	4	4	各種便り、ＨＰの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。今後もメール機能を積極的に使い、ＰＴＡや地域との情報共有ツールとして、効果的に活用する。	A	自己評価は適切である。 ホームページのこまめな発信、ありがとうございます。

Ａ：自己評価は適切である。　Ｂ：自己評価は適切ではない。　Ｃ：評価のための資料が不足している。　Ｄ：評価は不可能である。

業務改善	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	3	今年度は、60時間を超えた教員は30名中９名である。職層ごとに見ると分掌・学年主任の労働時間が長い。今後は、校務分掌組織の見直しや担当業務の精選・統合、ＩＣＴ等を活用した業務改善に取り組む。